

# 産学官で介護人材養成

## 八学短大留学生受け入れ最多

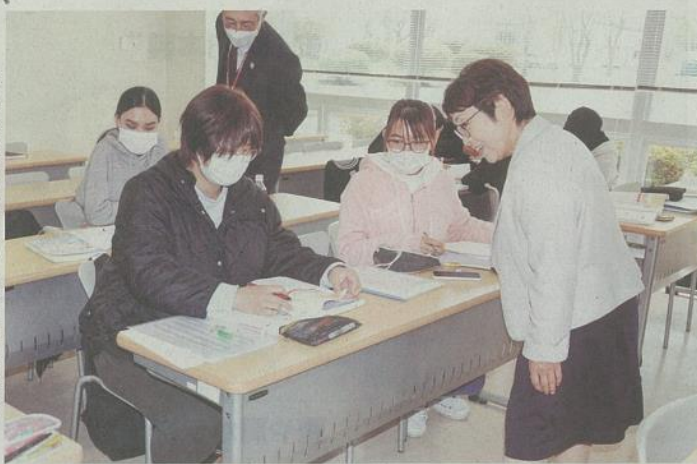
日本で介護人材の不足が今後も見込まれる中、八戸学院大短期大学部は南部町や近隣の介護事業者と連携し、外国人留学生を対象に介護人材の養成、確保に取り組んでいる。2023年度は介護福祉学科に留学生9人(タイ5人、インドネシア4人)が入学し、19年度の学科開設以来、最多となった。同大は「介護現場の課題解決のみならず、地域の定住人口の拡大につなげたい」と将来を展望する。

4月中旬、八戸学院大短期大学部。介護福祉学科の講義「ところどころだのしくみ」で、介護福祉士の国家試験に出題される「マズローの自己実現理論」を留学生が学んでいた。

熱心に耳を傾けていたタイ人のサマコム・アツチャラさん(30)は、16年に技能実習生として来日。岐阜県内で自動車部品製造に従事していた。一度帰国した後、昨年3月に再来日。仙台市の日本語学校に通いながら安定した仕事を探していたところ、同大の取り組みを知った。「これからは高齢者が多くなる。介護はやりがいのある仕事。ずっと日本で働きたい」と熱望する。

留学生として来日した外国人が大学に入学した後、介護福祉士の国家資

### 資格取得や生活支援 定住人口狙い



八戸学院大短期大学部の介護福祉学科で学ぶ留学生。産学官連携の取り組みが進んでいる。4月下旬、八戸市

格を取得。その上で本人が望む期間、日本で安定

的に介護福祉業務に従事する。産学官連携の試みは、そんな仕組みの構築を目指す。同大が介護人材の養成を始めた19年度はフィリピンの4人が入学。新型コロナウイルスの影響があったものの、20年度は中国1人、21年度は中国2人(1人は休学中)、22年度はベトナム1人を受け入れた。卒業した6人はいずれも資格を取得し、青森県内の介護施設に就職している。南部町での受け入れは22年度に本格スタートした。大学が専門教育、自治体が住宅、介護事業所がアルバイトや実習をそれぞれ支援。一定年数を返済が免除される奨学金を、生活費に充てる。留学生が安心して生活するには関係機関の適切なフォローが重要だという。

留学生の存在は、介護福祉学科の活性化につながっている。定員40人に対し、日本人と留学生を合わせた19、22年度の入学人数は10人、21人、13人、21人と推移し、23年度は36人に増加した。柏葉英美学科長は「高齢化の先進地である日本の介護は世界が注目している。アイデンティティや誇り、自信を持つて働ける介護福祉のリーダーになる人材を育てたい」と先を見据える。

(工藤洋平)